

第 1 回 (9/24) ガイダンスとイントロダクション

1. 授業担当者自己紹介

氏名： 榎本 環 (准教授)
メール・アドレス： tenomoto@komajo.ac.jp
研究室： 10-716
オフィス・アワー：月曜日 13:00～14:30、火曜日 10:40～12:10
Anytime welcome !

私の社会的キャリアについてちょっと一言

2. “逆算” の発想：大学の 4 年間で学んでおくべきこと

実社会：きわめて多数の人びととの協働活動 esp. 異なった年齢層・世代構成
「仲間」でもなく「アカの他人」でもないという関係性
選べない関係性

- 自分から動く (待っていても周りの人は何も教えてくれない、誰も助けてくれない)
- 自分で決める ←判断力、企画力、自己管理能力
- コミュニケーションのスキル

「自分の可能性を伸ばす」「成長する」ということ

=

「そんなの無理だ」「自分にはできない」「大変そうだからやめとく…」→その時点でオワリ

3. 事務連絡

本科目について (本年度)

「職業の世界」：学群人間文化学類人間関係専攻 選択科目 (2 年生)

「職業の世界」：人文学部人間関係専攻 選択科目 (3～4 年生)

教室変更、履修制限などの可能性

出席カード

4. 授業概要

日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について具体的に紹介しつつ、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方、女性労働をめぐる諸課題、人びとの社会生活と企業との関わりを社会学的・現代社会論的視点から考察します。授業では、問題解決型学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行います。

次の 3 点が目標です。

1. 日本の職場世界とホワイトカラーの業務について現実的なイメージをつかむ
2. 組織のなかで個人が期待される役割を個人行動との比較の視点で理解する
3. 女性が働く環境とその課題について理解する

5. 授業スケジュール (途中で修正する可能性もあります)

- 第 2 回 (10/01) 日本のカイシャ ——日本企業の職場世界
- 第 3 回 (10/08) ホワイトカラー労働の特質
(10/15 りんどう祭代休)
- 第 4 回 (10/29) 受講者によるアルバイト体験報告
- 第 5 回 (11/05) ホワイトカラーの業務
- 第 6 回 (11/12) ホワイトカラーの組織とキャリア形成
- 第 7 回 (11/19) 組織における情報伝達とコミュニケーション
- 第 8 回 (11/13) 企画と執行 ——仕事の段取り
- 第 9 回 (11/26) マクドナルド化と感情マネジメント
- 第 10 回 (12/03) 女性労働の現状と課題
- 第 11 回 (12/10) 年功制と成果主義・能力主義
- 第 12 回 (12/17) 職場規範と人間関係 1 ——職務役割、人事考課
- 第 13 回 (1/07) 職場規範と人間関係 2 ——組織内コミュニケーション
- 第 14 回 (1/14) キャリア・ダイナミクス
- 第 15 回 (1/21) 労働観と働き方の多様化 ——ワークライフバランスをめぐって
- 定期試験 (1/29～2/04)

6. シラバスより関連事項

【授業開始前学習】

とくに事前学習の必要はありませんが、企業や労働、職業キャリアなどに関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。

【関連科目】

本講の内容は「組織マネジメント」「チームビルディング／企業プロデュース」と隣接し、「進路設計」「キャリアリテラシー」「ビジネスインターンシップ／学外実習」などの内容を学術的に捉え返すことになります。

【その他】

視聴覚教材やジャーナリズム文献等も積極的に使用し、アクチュアルな理解と考察の機会を提供することを目指します。ケーススタディやディスカッションなどを交えながら共演形式で授業を進めます。就職活動やインターンシップを控える受講者にとっても有益な内容となるよう、試みるつもりです。他学類・他学科の学生の履修も歓迎します。

7. 授業運営ポリシー

「現場感覚」に根ざした学知と自由闊達な意見交換をモットーに進めたいと思います。受講者諸君の素朴な疑問や柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えています。

＊ 受講マナーについて

【目指すもの】

- 「生きた学問」
- 拙くても構わない、自分の頭で考え抜く知性
- 双方向の授業

8. 成績評価と採点基準

シラバス

「平常点（受講取組みの積極性、課題提出）（60％）、期末レポート（40％）により評価します。」

↓

【出席】（配点 30％）

＊ 注意：出欠についての考え方 ×出席してれば単位くる…

【授業参加の積極性】（配点 30％）

BBS への投稿回数・内容、授業中の発言や質問、ディスカッションへの積極的参加、提出物の提出状況などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。

「授業中に当てられるのが苦手で…」

【期末レポート】（配点 40％）

期末レポート（講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます。分量 3,000 字以上）により評価します。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価のポイントとします（たんなる感想文や、文献・Web からの引用の継ぎはぎでは低い評価となります）。

※ 提出期限を厳守してください cf. 社会生活における「期限」の重み

※ レポートが提出されない場合、レポート評点は 0 点となります

※ 学内内規により総得点（授業参加の積極性＋レポート評点）が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

GPA 評価制度について

9. 授業 Web サイトについて

【授業 Web】

URL: <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

授業レジュメ（PDF ファイル）を、「職業の世界」のページに毎回、アップしておきます。

＊ 配布物のうち、文献からのコピー資料は保存ファイルには含まれません。ご了承を

この授業では「講義録画システム」も利用します。欠席した場合は活用を。

【掲示板 BBS】

URL: <http://9113.teacup.com/tenomoto2/bbs>

スマホからもアクセス可能（ですが、PC からアクセスすることを推奨します。理由… ）

授業内容へのコメント、意見交換、授業へのリクエストに活用してください。

投稿の回数・内容 →成績評価のポイントに換算

投稿の際は、ニックネームで。**学籍番号**を件名または本文中に必ず入力してください。

【Why BBS? : その目的】

① ガッツリ学ぶ（漫然と授業を受けるだけではダメ、レジュメ・資料再読、復習）

② 受講者相互の意見交換・相互啓発・理解補足

③ 公的コミュニケーションのスキル

④ 自己管理能力

plus, 理解度チェック（授業担当者）、授業へのフィードバック

10. テキスト・参考文献

【テキスト】

とくに指定しません。毎回、授業レジュメを配布する予定です。

【参考文献】

城繁幸、2006、『若者はなぜ3年で辞めるのか?』光文社新書

佐藤厚、2001、『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

佐藤博樹・佐藤厚編、2004、『仕事の社会学——変貌する働き方』有斐閣

佐藤郁哉、2002、『組織と経営について知るための 実践フィールドワーク入門』有斐閣

佐藤郁哉・山田真茂留、2004、『制度と文化 組織を動かす見えない力』日本経済新聞社

G.クンダ、榎村志保訳、2005、『洗脳するマネジメント』日経 BP 社

E.H.シャイン、金井壽宏監訳、2004、『企業文化——生き残りの指針』白桃書房

犬塚先編、2003、『新しい産業社会学 改訂版』有斐閣（有斐閣アルマ）

梅澤正、2000、『企業と社会』ミネルヴァ書房

橋爪大三郎・金井壽宏、2001、『強いサラリーマン、へたばる企業』廣済堂出版

林謙二、2000、『外資系で働くということ』平凡社（平凡社新書）

森真一、2000、『自己コントロールの檻』講談社（講談社選書メチエ）

熊沢誠、1997、『能力主義と企業社会』岩波書店（岩波新書）

金井壽宏、1999、『経営組織』日本経済新聞社（日経文庫）

【オススメ文献】 まずはこちらから…

小島貴子、2006、『就職迷子の若者たち』集英社新書

稲泉連、2000、『僕らが働く理由、働かない理由、働けない理由』文藝春秋

香山リカ、2004、『就職がこわい』講談社

玄田有史、2001、『仕事のなかの曖昧な不安——揺れる若年の現在』中央公論新社

玄田有史、2005、『働く過剰 —— 大人のための若者読本 日本の現代 12』NTT 出版
小杉礼子、2003、『フリーターという生き方』勁草書房
本田由紀ほか、2006、『「ニート」って言うな！』光文社新書
大久保幸夫、2002、『新卒無業。 —— なぜ、彼らは就職しないのか』東洋経済新報社
村上龍、2003、『13 歳のハローワーク』幻冬舎
森岡孝二、2005、『働きすぎの時代』岩波新書
R.P.ドーア、2005、『働くということ —— グローバル化と労働の新しい意味』中公新書
日本経済新聞社編、2004、『働くということ』日本経済新聞社
五十棲剛史、2004、『なぜ、あなたは働くのですか？』ビジネス社
小浜逸郎、2002、『人はなぜ働かなくてはならないのか：新しい生の哲学のために』洋泉社
ジョアン・キウラ、中嶋愛訳、2003、『仕事の裏切り：』翔泳社
前田良行、2000、『実力主義という幻想 —— 「外資」の虚像と実像』時事通信社
高橋伸夫、2004、『虚妄の成果主義 —— 日本型年功制復活のススメ』日経 BP 社
城繁幸、2004、『内側から見た富士通「成果主義」の崩壊』光文社
鎌田慧、1983、『自動車絶望工場 —— ある季節工の日記』講談社文庫

その他、授業を通じて随時、紹介します。

11. 次回までの課題

あなたのこれまでのアルバイト体験やご家族・知人の働きぶり、マスコミ情報などから…、「働くこと、会社、職場などに対するあなた自身の疑問」

- 原則として、全員分を集約し全員にレポート集として配布します（予定）。
- プライバシー情報（個人名、勤務先名称など）は仮称を用いるなどの工夫をお願いします。
- 分量：A4 用紙 1 枚にプリントアウトして提出（学籍番号と氏名を記入。表紙不要）
- 期限： 次回 10 月 1 日（火） 授業時 までに

- ① 添付ファイルでメール（ tenomoto@komajo.ac.jp ） または、
- ② 教室に持参

12. 第 4 回（10/29）のプレゼンについて

第 4 回（10/29） 受講者によるアルバイト体験報告

- 前項「疑問レポート」をベースに（別内容でも可）
- PowerPoint でプレゼン
- 持ち時間 10～15 分程度で

13. 次回の予告

10 月 1 日 日本のカイシャ ——日本企業の職場世界 ←とても重要！

次回までに教務課掲示板の掲示情報を必ずチェック！

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9113.teacup.com/tenomoto2/bbs>

何を伝えたいか

- 会社ってどんな世界だろうか ←バイトとは異なる世界！
- 仕事の具体的なイメージ
- 組織って？（組織活動と個人行動との違い）
- 就活の前に知っておいたほうがよいこと
- 自分のキャリアを考えるときに知っておいたほうがよいこと
- 会社生活を始める前に知っておいたほうがよいこと